

# 富山市のまちづくりの基本方針 ～コンパクトなまちづくり～

鉄軌道をはじめとする公共交通を活性化させ、その沿線に居住、商業、業務、文化等の都市の諸機能を集積させることにより、公共交通を軸とした拠点集中型のコンパクトなまちづくりを実現

## <概念図>

### 富山市が目指すお団子と串の都市構造

**串** : 一定水準以上のサービスレベルの公共交通

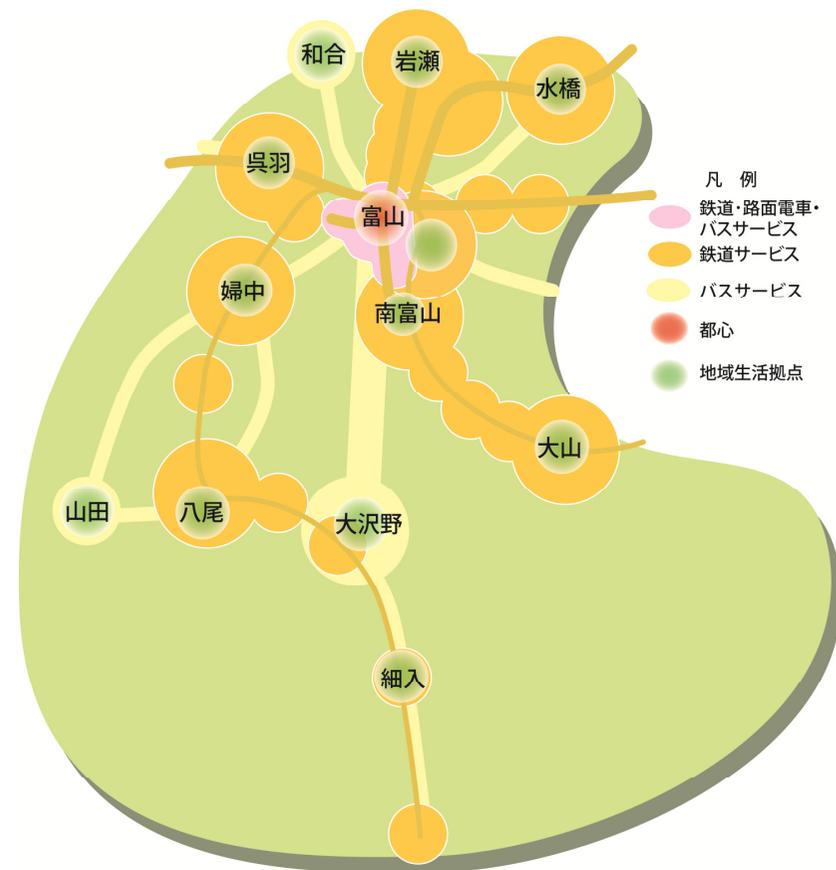
**お団子** : 串で結ばれた徒歩圏

## <実現するための3本柱>

①公共交通の活性化

②公共交通沿線地区への居住推進

③中心市街地の活性化



# 公共交通の活性化 ～LRTネットワークの形成～



LRTネットワークの形成により、過度に車に依存した  
ライフスタイルを見直し、**歩いて暮らせるまち**を実現



# 都心地区・公共交通沿線居住推進地区の設定と居住人口の目標

## 都心地区・公共交通沿線居住推進地区の設定

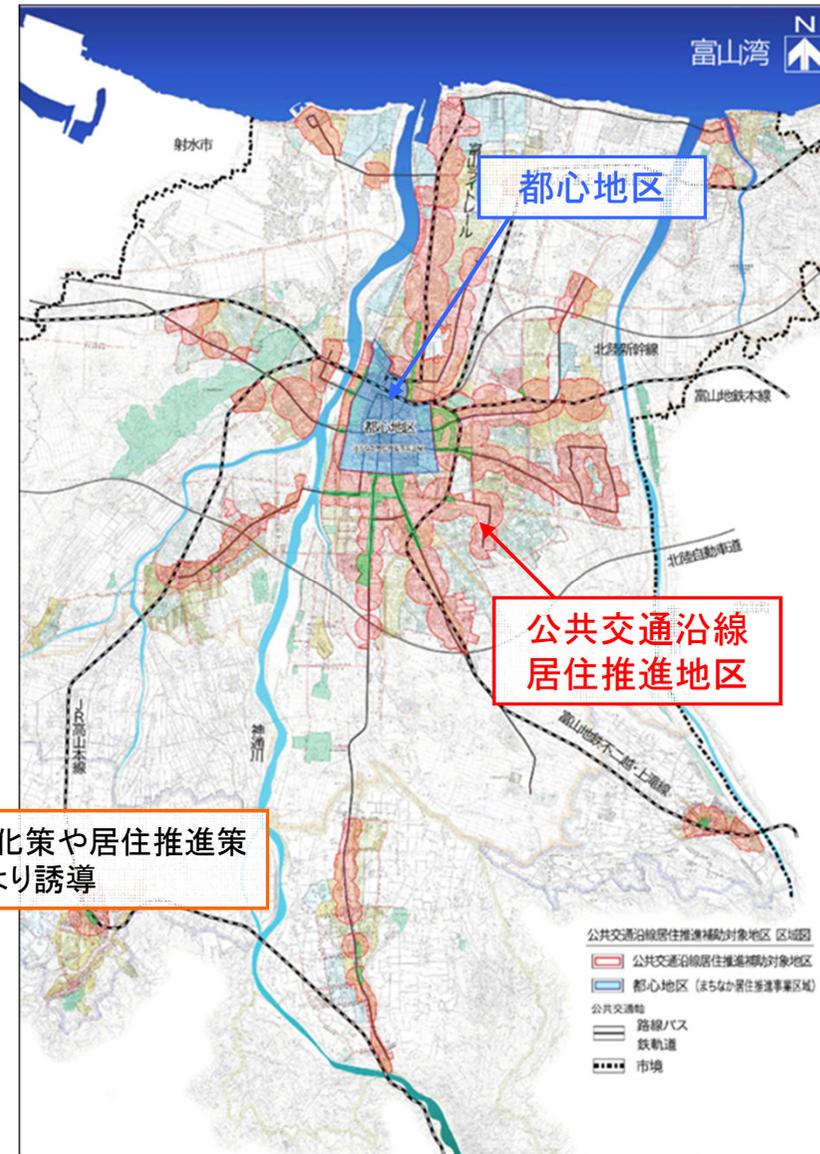
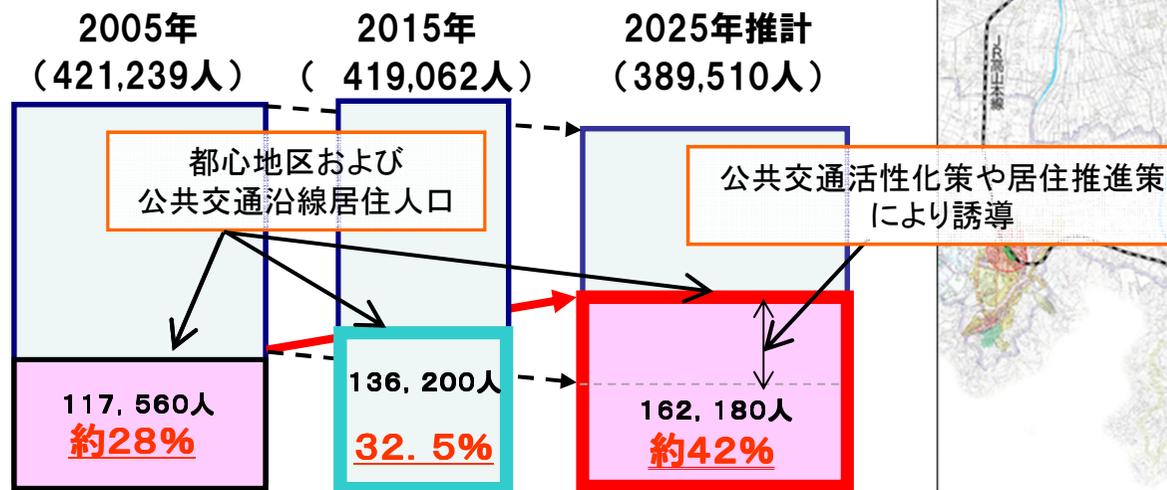
- 都心地区：約436 ha
- 公共交通沿線居住推進地区：約3,383ha

※富山駅を中心とした19の公共交通軸周辺

- 鉄道、軌道駅勢圏（半径500m）
- バス停圏（半径300m）

都心地区及び公共交通沿線居住推進ゾーンでは、良質な住宅の建設事業者や住宅建設や購入する市民に対して助成

## <公共交通沿線における居住人口の目標>

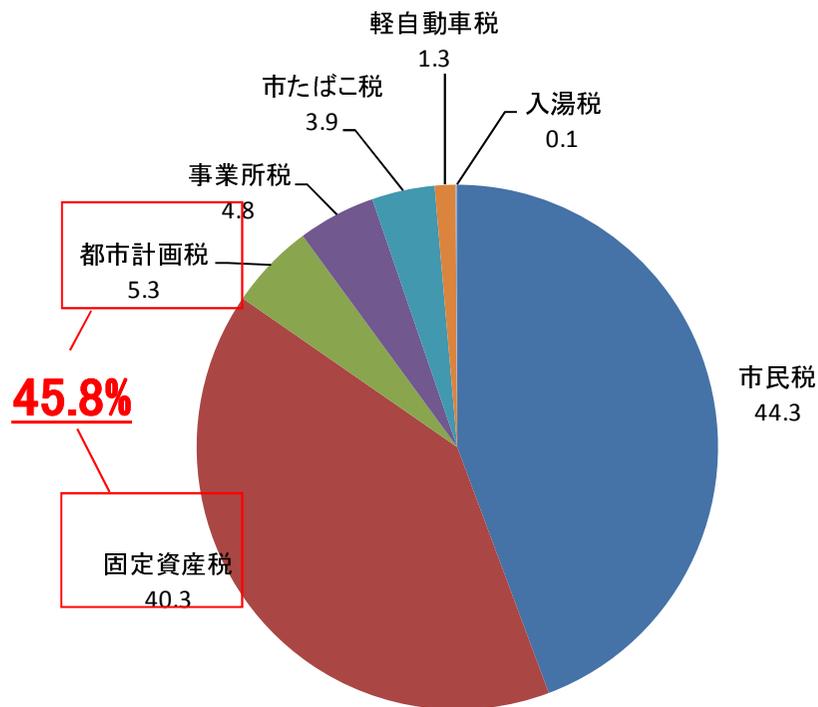


# 財政面から見た中心市街地活性化の意義



## 富山市における市税の内訳 (平成28年度当初予算)

【市税:約720億円】



## 固定資産税・都市計画税の 地域別内訳(平成28年度)

	面積比	固定資産税+都市計画税
市街化区域	5.8%	75.0%
うち中心市街地	0.4%	22.4%
上記以外	94.2%	25.0%

中心市街地への集中的な投資は、  
税の還流という観点からも合理的で  
あり効果的



# 高齢者健康増進端末機の研究開発

- ・GPS、歩数計測機能、歩行促進アプリを内蔵した小型端末機「おでかけっち」を、京都大学を中心としたコンソーシアムと共同開発。
- ・端末機を高齢者等に携帯してもらい、交通行動やまちなかでの移動目的等进行分析。
- ・GIS(地理情報システム)や公共交通ICカード、各種統計データと組み合わせることで、都市・交通・健康・福祉など他分野の施策立案に活用。

## 「おでかけっち」の開発・製作

・GPS、歩数計測、歩行促進アプリを内蔵したツールを開発

・高齢者でも持ち歩きやすいポケットサイズ



## データ収集

・日常的に携帯してもらうことで、端末機に各種データが蓄積される。

### 【蓄積データ】

- ・GPS(位置情報)データ
- ・歩数データ
- ・健康状態データ
- ・beaconデータ

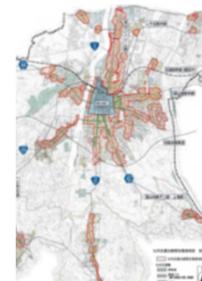


### 【組み合わせデータ】

- ・利用者の属性(性別、年代、居住地域など)データ
- ・公共交通ICカードデータ
- ・医療費データ
- ・生活基礎調査などの各種統計データ・・・など

## データ分析

- ・公共交通の利用状況
- ・移動経路、移動距離、歩数
- ・まちなかの立ち寄り場所
- ・インセンティブによる行動の変化
- ・外出と歩数の相関
- ・GISへの展開



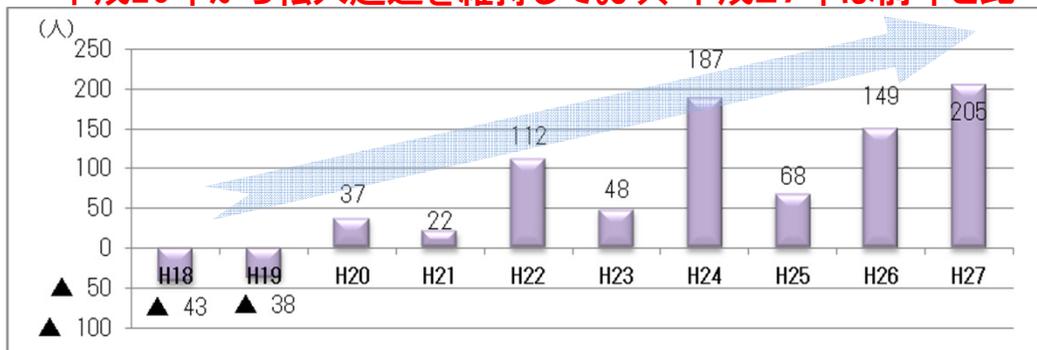
都市・交通・健康・福祉などの施策立案

# コンパクトなまちづくりの効果

## ～転入人口の増加～

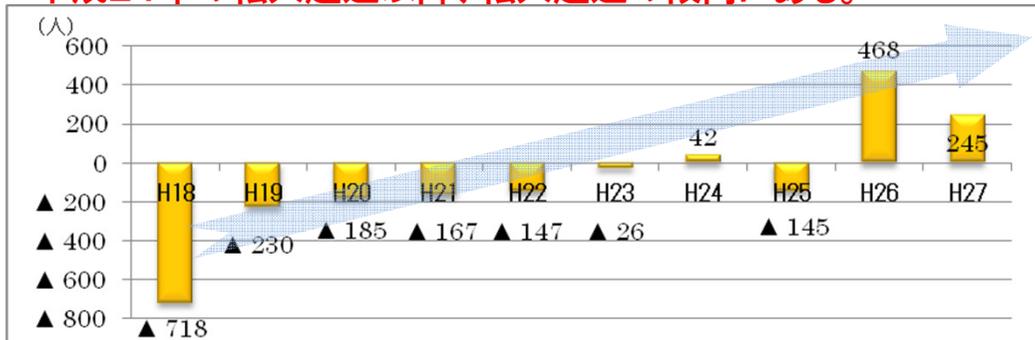
### 【中心市街地(都心地区)の社会増減(転入-転出)の推移】

- 平成20年から転入超過を維持しており、平成27年は前年と比べて超過数が増加している。



### 【公共交通沿線居住推進地区の社会増減(転入-転出)の推移】

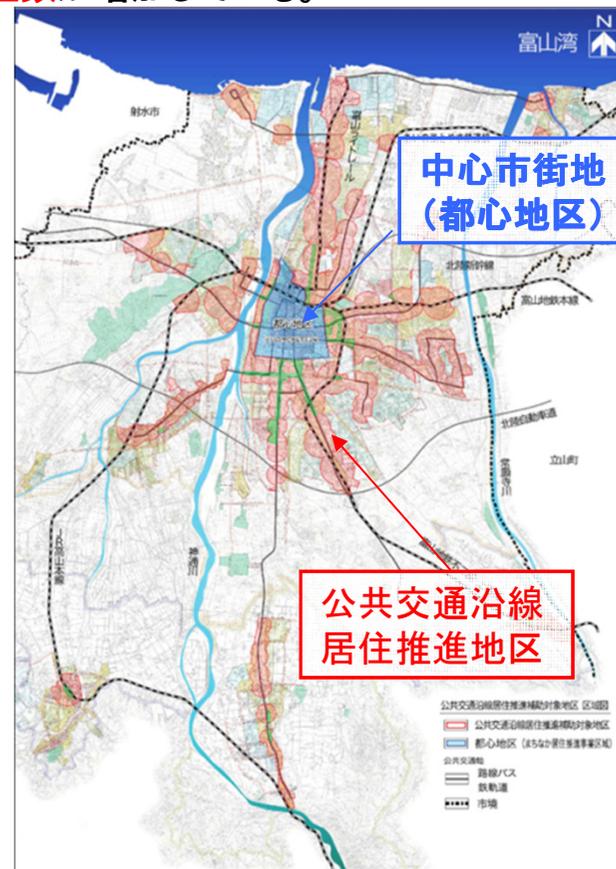
- 平成24年の転入超過以降、転入超過の傾向にある。



### 【中心市街地(都心地区)における人口動態の推移の推移】

- 調査結果のある平成18年以来、初めて人口増加となった。

	H18	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27
①自然動態 (出生-死亡)	▲ 181	▲ 144	▲ 149	▲ 156	▲ 149	▲ 133	▲ 205	▲ 184	▲ 156	▲ 166
②社会動態 (転入-転出)	▲ 43	▲ 38	37	22	112	48	187	68	149	205
③人口動態 (①+②)	▲ 224	▲ 182	▲ 112	▲ 134	▲ 37	▲ 85	▲ 18	▲ 116	▲ 7	39



# コンパクトなまちづくりの効果 ～地価公示(H28年1月1日)結果～



- 県全体の地価平均は、平成5年以降（24年間連続）下落
- 県内市町村で、富山市だけが、2年連続で地価が上昇（全用途平均の地価）
- 富山市全体では平均+0.4%（前年比）上昇、特に商業地は平均+0.7%上昇
- 商業地は富山駅周辺や環状線沿線を中心に8地点で上昇
- 住宅地は市内11地点で上昇

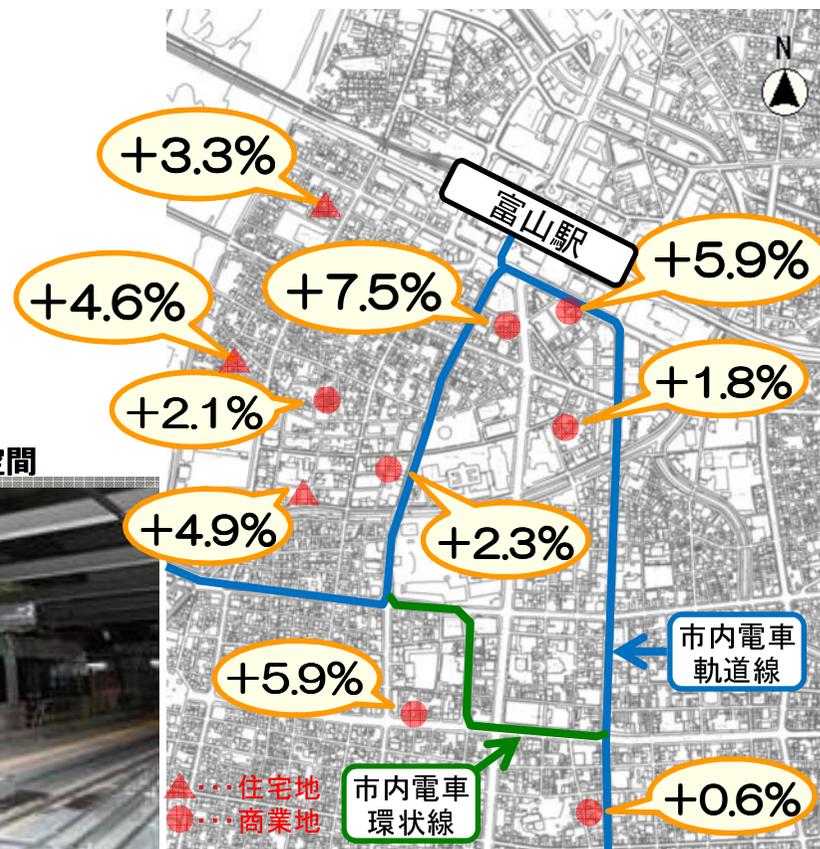
## ＜上昇に転じた要因＞

- ・ 商業地：北陸新幹線開業、富山駅周辺整備の進捗、民間による再開発の活発化
- ・ 住宅地：中心市街地周辺での利便性や値ごろ感、まちなか居住推進政策の進展

市内電車沿線区間



富山駅高架下LRT空間



【地価上昇率の大きい地点】

（平成28年地価公示より）

※地価公示（国調査、基準日：1月1日）、調査地点数（市内91地点）

# 地域包括ケア拠点施設の整備

## ～都市型の地域包括ケアシステムの構築～



- ◆乳幼児から高齢者まで、地域住民が安心して健やかに生活できる健康まちづくりを推進するための一元的・包括的なサービス提供
- ◆都市型地域包括ケア体制構築のモデルケース(コンパクトなまちづくりのさらなる推進)

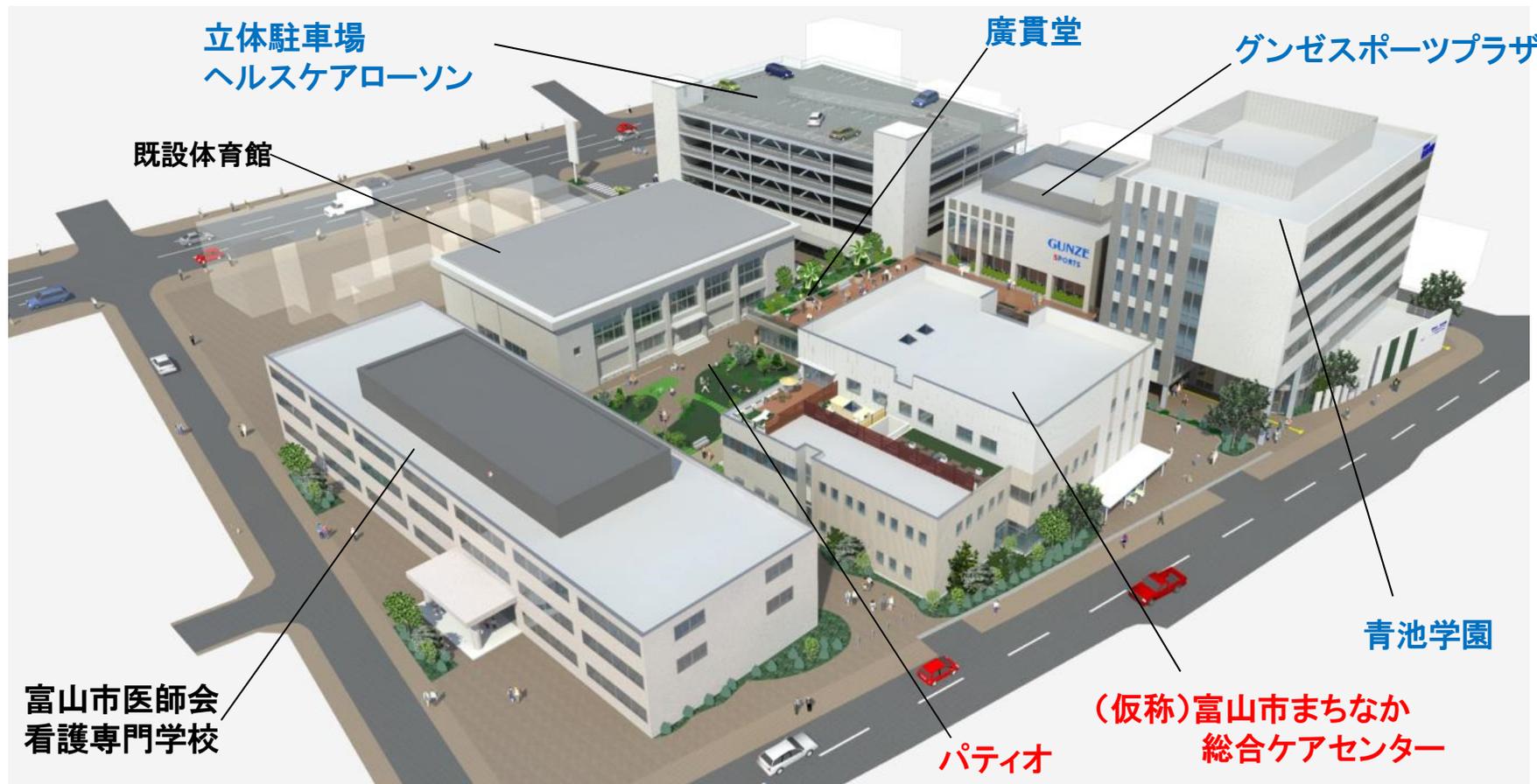


# 地域包括ケア拠点施設の整備

～公民連携による健康拠点の整備～



地域包括ケア施設の整備を含む旧総曲輪小学校跡地活用事業については、市有地の有効活用及びコスト削減、都市機能の整備等の観点から、事業者の自由提案により、公共施設との相乗効果が期待できる民間施設を整備



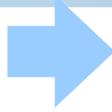
平成29年4月開業予定

# エゴマ6次産業化の将来展開について



**課題**

- 農業の衰退(担い手不足、耕作放棄地拡大など)
- 地域経済の活性化(輸出産業の創出)
- 市民の健康増進(生活習慣病の予防)



**取組**

- 薬用植物の一種であるエゴマの大規模露地栽培
- ソフトカプセル工場でエゴマ油サプリメントを製造
- 生活習慣病予防に資する輸出産業の創出

## 一団の耕作放棄地(24ha)を大規模優良農地に再生

耕作放棄地を市が基盤整備し、大規模優良農地として再生。企業や新規就農者等、意欲的な農業の担い手に農地を貸与。



総事業費:7.0億円  
 農業競争力強化基盤整備事業:3.2億円  
 単独事業:3.8億円

## エゴマ大規模露地栽培の推進

再生した農地でエゴマの大規模露地栽培を行なうため、トラクター、定植機、コンバイン等を購入し、農業経営体に貸付。



総事業費:0.6億円  
 地域再生戦略交付金事業:0.4億円  
 単独事業:0.2億円

## 6次産業化の推進

エゴマ油を、高付加価値の健康サプリメントへと6次産業化



サプリメント製造施設整備  
 総事業費:10億円  
 地域再生戦略交付金事業:10億円



高齢者・障害者雇用

## 輸出産業の創出

生活習慣病の予防に効果的なα-リノレン酸を豊富に含むエゴマ油を注入したサプリメントを、生活習慣病が蔓延する先進国へ海外展開



6次産業化の推進による農村地域の活性化

# コンパクトなまちづくりへの国際的な評価



富山市のコンパクトなまちづくりや環境施策に対する**国際的な評価が高まっている**



## OECD

2012年6月、OECDが取りまとめた『コンパクトシティ政策報告書』の中で、富山市が先進5都市(メルボルン、バンクーバー、パリ、ポートランド、**富山市**)の一つとして取り上げられる。



## SE4All

2014年9月、国際連合のSE4All (Sustainable Energy for All:万人のための持続可能なエネルギー)における、「**エネルギー効率改善都市**」に日本で唯一選定。



森富山市長、ユムケラー・SE4ALL担当国連事務総長特別代表、堀江・外務省地球環境問題担当大使



## ロックフェラー財団

2014年12月、ロックフェラー財団より、「自然災害や犯罪、テロなど各都市が直面する様々な衝撃や課題に対し、その重圧に耐え、回復する強靱な都市を目指す」、「**100のレジリエント・シティ**」に日本で唯一選定。(2016年5月に京都市も選定)

